

#医学書院の新刊

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.118)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



あ、あの脳卒中の対象者さんの手って、このくらい良くなるんじゃないかな…

統計用語を勉強する、文庫の探しかたや使い方を、臨床で予後予測も活用してある

予後予測から見えた対象者の未来を超えるために、いま私たちができること

予後予測セミナー講師と臨床医の医師の臨床現場を学ぶはう

医学書院

予後予測って結局どう勉強するのが正解なんですか？

竹林 崇＝著

たいら さおり＝漫画

定価 2,970 円／A5・288 頁／医学書院／2025

限られた時間の中で、最適なリハビリテーションを対象者に届けるために——療法士にとって「予後予測」の視点は、欠かすことのできない実践知といえる。本書は、漫画や会話形式による導入から、臨床現場のエピソードも織り交ぜつつ解説を施すことで、初学者もスムーズに学びが深まる構成に。著者の前著『臨床5年目までに知っておきたい予後予測の考えかた』と併せて読むことで、予後予測の理解と活用の幅を広げることができる。



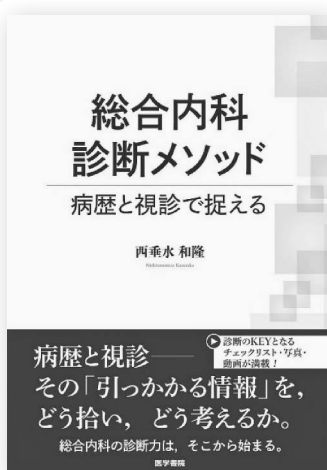
ひもとく・理解する・支援する

失行のリハビリテーション

花田恵介＝編

定価 4,950 円／B5・328 頁／医学書院／2025

高次脳機能障害は身体障害に比べると目に見えにくく、療法士にとって、患者への対応に難渋することも少なくない。本書は、その代表的な障害である「失行」に焦点を当て、神経心理学やニューロサイエンスの視点から症状の本質を探っていく。リハビリテーションや用いられるアウトカム尺度の現況をバランスよく示すとともに、臨床での支援例も多数収載。複雑にからみ合った症状をひもとくことで、患者に「気づき」をもたらす1冊。



総合内科診断メソッド

病歴と視診で捉える

西垂水 和隆＝著

定価 5,280 円／A5・360 頁／医学書院／2025

ベテラン総合内科医が、教科書やガイドラインでは語られることの少ない「総合内科ならではの診断メソッド」を1冊に凝縮。その核となるのは「病歴と視診」であり、それを支える「問診テクニック」だ。

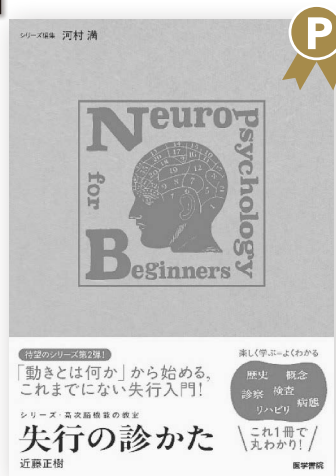
本書では、効率よく、迷わず、正しい診断につなげるための「引かかる病歴と見た目」を具体的に提示し、それらを日常診療の中でどう拾い上げ、診断につなげていくか——総合内科医の経験知を余すところなく伝える。重要所見のWEB動画も多数収載。AI時代にあっても内科医必読の臨床書。



マイスター直伝！ 「心電図」が「臨床」とつながる本

松永圭司＝著
定価 3,300 円／A5・168 頁／医学書院／2025

その心電図の勉強、ちゃんと臨床に活用できていますか？ 心電図マイスターが贈る、「心電図」と「臨床」がつながる本！ 勉強が苦手だった、薬剤師時代の自分でもわかるように、書きました。大人気の KagawaECG、待望の初書籍！



《シリーズ・高次脳機能の教室》 失行の診かた

河村 満＝シリーズ編集
近藤正樹＝著
定価 3,850 円／A5・200 頁／医学書院／2025

高次脳機能障害のなかでも、特に難解な概念の 1 つ——「失行」。この複雑なテーマをエキスパートがトコトンわかりやすく解き明かす。「なぜ失行は理解しにくいのか？」。その問いに向き合い、まずは前提となる「動き」のしくみから丁寧に解説。そして失行を「発見」した Liepmann を軸に、彼以前・以後まで広く歴史の流れを俯瞰し、点の知識ではなく、立体的な全体像として失行を捉える。カラーイラストも豊富に収載。



臨床医のためのライフハック 「診療・研究・教育」がガラッと変わる時間術

中島 啓＝著
定価 3,850 円／A5・200 頁／医学書院／2025

臨床医の仕事は日常の診療だけにとどまらず、教育、研究、学会発表、事務作業、情報発信、さらには所属組織の運営などそのタスクは尽きることがない。そんな忙しい医師の限られた時間をどう前向きに捉え、どう有効活用すればよいのか。本書は、忙しいなかでも目標を達成し、アウトプットを出し続けている著者の「ライフハック（仕事術）」を余すことなく紹介する。

若手医師のキャリア形成やタスク管理向上にも役立つ 1 冊。時間を味方につけ、小さな習慣を積み重ねることで、あなたのキャリアが大きく変わる。本誌連載待望の書籍化！